

研究・調査報告書

報告書番号	担当
137	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Protective behavioral strategies mediate the effect of drinking motives on alcohol use among heavy drinking college students: gender and race differences. 飲酒に対する予防行動戦略が、過度の飲酒を行う大学生におけるアルコール摂取の動機を和らげる効果がある：性別・人種間の違い	
執筆者	
LaBrie JW, Lac A, Kenney SR, Mirza T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addictive Behaviors 36 (2011) 354–361	
キーワード	
アルコール、予防的な行動戦略、飲酒の動機、大学生、性別、人種、客観的な	
要 旨	
目的： 本研究では予防的な行動戦略（PBS）がアルコールに関する飲酒動機に影響するか、その程度について検討した。またこれら仮説となる関連が性・人種のサブサンプルを通じてみられるか検討した。	
方法： オンライン調査が2大学(男性 49.9%、女性 50.1%、白人 76.9%、とアジア系 23.1%) の重度飲酒の学部生 1592 人を対象に実施された。独立 2 標本 t 検定を用い、男性と女性、白人とアジア系の中の飲酒動機の指標、PBS の使用、アルコール消費量が比較された。また構造方程式モデルによって PBS の緩和作用が検討された。	
結果： 予測どおり t 検定では男性が女性よりも消費量が高い結果であったが、女性では PBS の使用が男性より多く報告された。白人ではより多くの消費量、より高い動機、深刻な害の減少に伴い高い PBS が報告された。一方アジア系ではコーピングと服従の動機に高い傾向がみられ、PBS は飲酒の停止/制限に焦点を当てられていた。多標本の構造方程式モデルの分析では、PBS はすべての人口学的サブサンプルにおいて、動機と飲酒の間の関連を大きく緩和することを示していた	
結論： 調査結果から PBS の使用によって、事前に確立された飲酒動機に関わらず、飲酒を減少させることが示唆された。これは、過度な飲酒をする大学生の広範なグループに対して飲酒量を減らすことにおいて、スタンドアロンの PBS の技能訓練による介入が潜在的な価値をもっていることを示している。	